

9月20日、ヨーロッパ文化遺産の日、パリ郊外のベルシー地区にあるベルシーパビリオンにて2009年もフランスのボルドーワインラベルを日本人作家が描き披露する芸術祭が開催されました。私にも是非出品してほしいという要望があり、大変名誉なことだからということで、太陽芸術祭のテーマに合わせて「太陽と月」の作品を提供しました。ベルシーパビリオンは、街の中心にありながらフランス政府より歴史的建造物指定を受けているので、一般の人にとって普段は入館が許されない憧れの場所なのですが、文化遺産の日だけは特別に開放されるのです。

その日はフランス中の博物館、美術館などが無料で開放され、多くの人たちがそれを機会に文化や歴史に気軽に触れられるのです。パビリオンも当日は大変賑わい、飲んだり歌ったり踊ったり芸術祭を楽しんでいました。

パビリオンは、古きよきパリの面影を残すメリーゴウランドや回転木馬などの遊具や設備、施設等貴重な文化財を多く保護保存していますが、館長のファビン氏はかの有名なダリのような風貌の好紳士で、日本のワインのアートラベルもここに永久保存されることとなりました。

ベルシー地区はフランスの太陽王といわれたルイ14世の時代より世界一のワインの集積地として栄え、多くの倉庫が建ち並んでいましたが、1960年以降鉄道など流通の変化により、ワインの集積地としての機能を失ってしまうのです。1970年代、ベルシー地区の再開発が始まり、ワイン倉庫もかなり取り壊されましたが、その一部が今でも周囲のモダンな建物と調和して残されており、そのある部分は新しくレストランやおしゃれなショップとして再生（リノベーション）され、現在人気のスポットとなっています。

古い建物を壊して更地にするのではなく、リノベーションによって再生させる。伝統ある建物を新しいコンセプトによりよみがえらせる、世界的に大きな潮流になっている循環型社会をすでに先取りしているパリの新しい取り組みは大変参考になると思いました。

